

令和6年度

南部中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

思考・行動の質を高めるための授業改善

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 福岡 史記	委員	滝川 尚
	総括(学校長)	福岡 史記、西角 祐香
	委員(推進担当)	鎌田 如恵、矢野 耕資
	委員(主任)	陰山 直子、鶴本 素子

校長

滝川 尚

【小中連携または中高連携における共通の取組】

学習のめあての提示・学習の振り返りを徹底して行う

【各校の取組状況の把握について】

授業見学週間での相互評価、および生徒への実態アンケートの実施

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能はある程度習得できている。	・基礎的・基本的な知識・技能を習得できる。	・基礎的・基本的な知識・技能を習得できる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
●読解力に課題がある。 ●考えるための技法を認識できていない。 ●習得した知識及び技能を実生活などに活かして、実践することができない。 ●思考して解答すべき問題は、正答を覚えていることが多い。	・読解力がある。 ・考えるための技法を教員と共有し、認識できる。 ・習得した知識及び技能を活かし、工夫して実践することができる。 ・既習事項や資料などから情報を得て、考えるための技法を働かせ、解答を導くことができる。	・授業や単元を通して一つの課題を追究するなど探究的な学習を取り入れる ・課題は「なぜ～？」のように学習する事柄を「関係づけ」たり、「理由づけ」たりするなど、考えるための技法を取り入れたものを増やす。 ・教科横断的に全ての教科で取り組むことをめざす。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
●自ら課題を見つけたり、主体的に学んだりすることが十分できていない。教員の説明を受け身になって聞く生徒が多い。 ●自らの学習の過程を認識できていない。	・自ら課題を見つけ、主体的に学びとろうとする。 ・メタ認知を働かせ、自らの学びの過程を認識し、適切に修正しようとする。	・探究的な学習を設定し、探究の手順を学ばせる。 ・探究の手順を活かせるよう、単元の初めに課題を設定したり、単元末に探究を進めるなど、効果的な単元設計を行う。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

